

国民健康保険医療費の情報を活用した保健活動の見直し

西堀瑞花（岡谷市役所健康推進課）、安田貴恵子（長野県看護大学）

要旨：岡谷市の国民健康保険医療費は増嵩を続けている。医療費の適正化を図るために、国民健康保険医療費を分析し、今後の保健活動に活用できるか、検討している。1人あたり医療費の区分別の状況、疾病構造、高額医療費となっている疾病、医療費に関連する事項や健康指標等を分析した結果、今後の優先的な課題として、若年からの糖尿病予防と、市民の健康状態の把握の2つが見えてきた。

キーワード：国民健康保険医療費、医療費分析、疾病構造、保健活動

A. 目的

岡谷市は、県内各市の中で、国民健康保険の1人あたり医療費が高い状態が続いている。岡谷市の国民健康保険医療費を分析して、予防可能な課題を明らかにし、効果的・効率的な保健活動を実践するための基礎資料を得ることを目的とする。

B. 方法

1) 岡谷市の概要

人口 54,982 人、うち国保加入者 19,046 人、国保加入率 34.6% である。うち 65 歳以上は 52.6% である（平成 17 年 4 月 1 日現在）。

2) 分析方法

① 1人あたり国民健康保険医療費の比較

岡谷市、長野県、全国の平成 15 年度国民健康保険 1 人あたり医療費を区分別（国保一般、退職、老人）に比較した。

② 疾病構造の分析と他市との比較

平成 16 年 5 月分病類別診療統計を用いて疾病構造を調べ、さらに占める割合の多い疾病をしぼり、現状分析した。

また、医療費が県内各市の中でも低く、人口規模が同等の茅野市と疾病構造を病類別診療統計大分類のレベルで比較した。

③ 高額医療費の現状分析

高額医療費を 50,000 点以上とし、疾病内容を平成 16 年 5 月分の病類別診療統計システムを用いて把握した。

④ 国民健康保険医療費に関連する事項の分析

長野県国民健康保険連合会でまとめられている長野県 100 指標各市比較は様々な方面から各市の状況が把握されている。健康水準をみるために、平成 11 年の標準化死亡比（SMR）を用いた。

⑤ 検討方法

今回の検討にあたっては、岡谷市の現状を明らかにするため、Excel を用いて集計した。

なお、今回分析した資料は、公表されている資

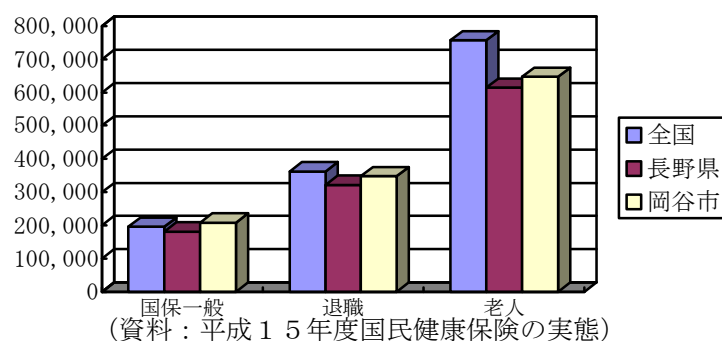
料であり、倫理面での問題はないと思われる。

C. 結果

① 岡谷市国民健康保険医療費の現状

図 1 に国民健康保険 1 人あたり医療費の区分別比較を示した。

図 1. 国民健康保険 1 人あたり医療費比較



国保一般において、岡谷市は長野県や全国よりも高くなっていることがわかる。

② 疾病構造の特徴

病類別診療統計を分析し、岡谷市では、糖尿病、高血圧系疾患、虚血性心疾患、精神疾患、脳梗塞の 5 疾患で件数及び費用の全体の 1/3 を占めていることがわかった。この 5 疾病についての 1 件あたり費用額の状況を国民健康保険の区分別に図 2 のように示した。

図 2. 上位 5 疾病の一件あたり費用額 (円)

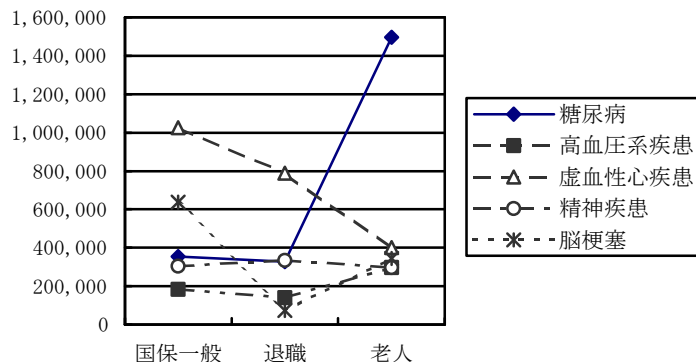


図2より、老人保健になると、糖尿病にかかる費用が急上昇することがわかる。国保一般では虚血性心疾患で費用がかかっている。

③ 高額医療費の疾病の特徴

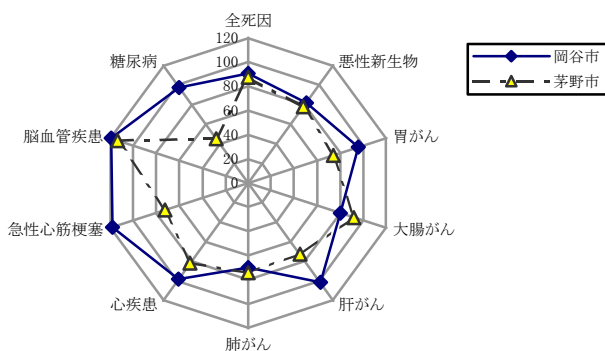
50,000点以上のものは、件数では全体の1%に過ぎないが費用額では全体の22%を占めていた。疾病数は57で、高額医療費に区分された中で費用額の多い疾病は、骨折(12%)、心疾患(9%)、脳血管疾患(9%)であった。

④ 岡谷市と茅野市の疾病構造、死亡状況の比較

岡谷市と茅野市の疾病構造の違いについて保険区分別にそれぞれ、入院、入院外と分けて比較したが、大きな差はなかった。

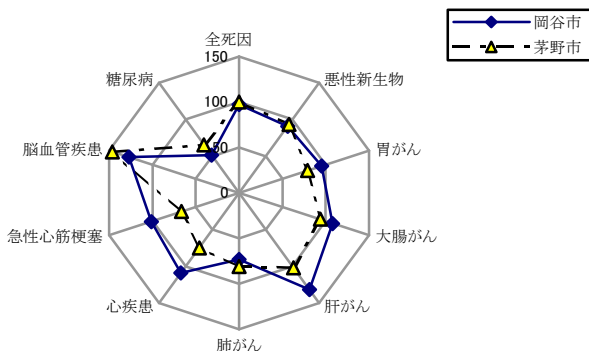
また、死亡状況についても同様に比較し、図5に男女別にそれを示す。

図5-1. 岡谷市と茅野市のSMRの比較
(男性)



(資料：人口動態統計特殊報告〈平成10年～14年〉)

図5-2. 岡谷市と茅野市のSMRの比較
(女性)



(資料：人口動態統計特殊報告〈平成10年～14年〉)

図5より、岡谷市は茅野市と比較して、全体的に標準化死亡比が高いことがわかる。また、標準化死亡比は、全国平均を100とした場合の指標であり、岡谷市は男女の脳血管疾患、女性の心疾患、胃がん、乳がん、大腸がん、男性の心疾患、胃がん、大腸がんが100に近いか、100を超えている。

D. 考察

結果の①、②、③より、老人保健で糖尿病における医療費が急上昇すること、また、高額医療費の疾病の中で高い率を示している、心疾患や脳血管疾患は糖尿病とのつながりが強いこと、岡谷市の国保一般医療費が高いことから、若い頃からの糖尿病予防が必要と思われ、今後の保健活動でこの部分に関して取り組んでいくことが重要になると推測される。

また、結果④、⑤より、医療費の低い茅野市との疾病構造に大きな差がないのは、近隣であり、自然条件も似通っているためであり、死亡状況から考えると、岡谷市民の健康状態があまり良くないと考えられ、このことについて、さらに詳しく分析し、保健活動へつなげられるものはないか、検討していく必要があると考えられる。岡谷市の糖尿病の標準化死亡比(平成1年)は、男性7.3、女性51.4であった。

今回分析した医療費情報は、岡谷市民の一部分の状況であり、疾病構造においてもレセプト1枚につき1疾病しか入力されていない。また、5月という限定された時期のものである。地区診断情報の1つとして有効であるが、把握できる範囲の限界もある。今後、他の健康保険の状況について検討が求められるだろう。

E. 今後の方向性

今後は、健診と医療費の結果をつなげて、より明確な情報を得て、保健活動の見直しにつなげ、より効果的・効率的な保健活動を実施できるようにしていきたい。

医療費が高いのは悪いと一概に考えると、真に必要な人が医療を受けられなくなることも考えられる。医療が必要な人は適切に医療を受けることができ、保健活動を担う立場としては予防可能な人に対してアプローチすることで、医療費全体を下げるという視点で今後も活動していきたい。